

「職場体験学習の受入」と「昔体験セット」

7月13日（水）～15日（金）3日間、別海中央中学校3年生T君の職場体験学習の受入を行いました。郷土資料館では、今までに大学生の学芸員資格取得のための博物館実習、高等学校のインターンシップ、そして中学生の職場体験学習の受入を行っています。郷土資料館の役割や意義を学ぶという基本的なことは変わりませんが、実習内容はその年の仕事内容に沿ったものになります。遺跡の調査をしている場合は、発掘調査や遺物整理作業、古文書の整理をしている時は、襖などに下張りとして貼られている古文書を剥がす作業など、普段の生活では経験出来ない様々な仕事をしてもらっています。

今回の職場体験では、所蔵資料を誰でも手軽に活用することが出来ないかと考え、「昔体験セット」の企画を考えました。誰でも使えるようにするには、わかりやすい取扱説明書が必要でした。その後の作業は、資料のピックアップとその状態の見極め、取扱説明書に使う写真と実際に使っているところの写真撮影を行いました。

3日間の職場体験学習で「昔体験セット」が完成し、直ぐに貸出し可能となりました。こうした研修を通じて体験したことは、本人にとって良い経験となるばかりか、物を残し、伝えるという郷土資料館運営の大きな柱のひとつとして、多くの人たちに活用されと考えています。

さらに詳しくは、こちらから

<http://betsukai.jp/blog/0001/index.php?ID=2495>（昔体験セットの貸出しについて）

<http://betsukai.jp/blog/0001/index.php?ID=2494>（実りある職場体験）



毎年好評です！ ふるさと講座・自然系

「コウモリ観察会」

7月20日（水）道指定有形文化財奥行臼駅通で、「コウモリ観察会」を実施しました。講師は根室市歴史と自然の資料館 学芸主査 近藤憲久さんで、コウモリについてのお話、捕獲・計測・観察を行いました。捕獲できたホオヒゲコウモリをまじかで見たり、翼手を触ったりと、大人も子どもも大興奮の観察会となりました。

さらに詳しくは、こちらから

<http://betsukai.jp/blog/0001/index.php?ID=2499>

（ふるさと講座自然系・第3回目を開催しました）



別海で見れるナデシコたち！

先日のサッカー日本女子代表のワールドカップ優勝は、大きな感動を与えてくれました。このチームが「なでしこジャパン」という愛称で呼ばれている事は誰もが知っていることと思います。「なでしこジャパン」の由来は、アテネオリンピックアジア予選時に「大和撫子（ヤマトナデシコ）」という言葉がよく使われ、「大和撫子」が「世界に羽ばたき、世界に通用するように」との願いを込めてヤマトが「ジャパン」となったものであると言われています。ユニホームには、首下や脇下のラインにナデシコの花の色、ピンクがあしらわれているそうです。



エゾカワラナデシコ（走古丹にて撮影）

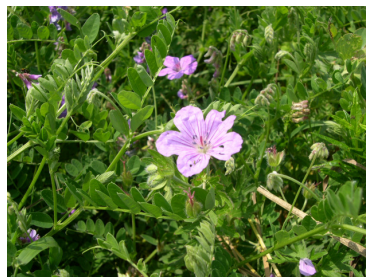
私たちが住んでいる別海町では、6月下旬～8月上旬にかけて野付半島、風蓮湖周辺の原生花園の花々が一斉に咲き乱れる時期となります。そんな花々のひとつに、この「なでしこジャパン」の名の元となった可憐なナデシコの花があります。

ナデシコは世界で約300種、日本では4種、その内のカワラナデシコがナデシコ、ヤマトナデシコと呼ばれ、「撫でし子」と語意が通じることから、しばしば子どもや女性にたとえられ、和歌などに多く使われています。ナデシコの花言葉は 純愛・無邪気・純粋な愛・いつも愛して・思慕・貞節・お見舞・女性の美・など女性的なイメージが強いが、才能・大胆・快活なども。なお、ヤマトナデシコ（カワラナデシコ）の花言葉は、可憐・貞節であるようです。

写真は、「エゾカワラナデシコ」と言い、カワラナデシコの基本種で、8月一杯別海町で咲いています。花の弁が細かく切れ込んでいて、花言葉の通り可憐な花です。ナデシコ以外にも短い夏のこの地方は、今が花ざかりです。きれいで可憐な花を観察してみてください。



イヌゴマ



エゾフウロ



ナミキソウ

別海町郷土資料館だより No.145

発行日 平成23年8月1日

発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

天気も良く、気温が上がり道端にも一斉に花が咲きましたが、セイヨウと名のついた花やきれいなオレンジ色けどアラゲハンゴンソウという外来種が多く目に付きます。家の周りに咲くピンク色の花も、ムシトリナデシコという外来種で、その繁殖力はすごい勢いです。とりきれません。(K.I)